

京大広報

No. 382

京都大学広報委員会



外国人学者、留学生懇親会
—関連記事本文 831 ページ—



目 次

<大学の動き>

- スタンフォード大学との学術交流…………… 828
- 西島総長、ノルウェー王国訪問…………… 829
- 京都大学市民講座
「はな」講演要旨(その3)…………… 829
- 外国人学者、留学生懇親会…………… 831
- 年末年始の火災予防と特別防火演習…………… 831
- 平成2年度大学入学者選抜
大学入試センター試験の実施…………… 831

<部局の動き>

- 公開講座
保健管理センター・学生懇話室
—公開パネル討論会—「夢・性・記号」…………… 831

<紹介>

- 教養部情報処理演習室…………… 832

<計報>

- 白馬山の家の冬季開設…………… 834
- 日誌…………… 834

<随想>

- 大学の「一般教育」について
名誉教授 香月 裕彦…………… 835

<コラム>

- 留学生専任教育教官雑感
経済学部講師 中島 章子…………… 836
- 写真集企画委員会からのお願い…………… 836

〈大学の動き〉

スタンフォード大学との学術交流

本学とアメリカ合衆国のスタンフォード大学との「学術交流に関する一般的覚書」が、平成元年11月10日に交換された。

これは、次に掲げる1月17日付け「大学間学術交流に関する一般的覚書」交換の推進に関する諮問について、国際交流委員会で検討を進めるなかで、同大学と協議を行い、11月「覚書」を交換することで合意に達したものである。(関連記事『京大広報』No.363)

一方、スタンフォード大学は、今秋、京都市左京区に完成したスタンフォード日本センターの開所式を行ったが、京都大学とは昭和61年12月に京都日本研究センター及びスタンフォード技術・革新センターとの間の学術交流と協力に関する覚書を交換している経緯がある。

これを契機としてこの度、同大学ドナルド・ケネディー (Donald Kennedy) 学長が本学を訪問、総長室において、スタンフォード大学との「覚書」が調印された。



め、今後本学創立100周年に向けて、広い分野の諸機関と積極的に学術交流関係の基盤を整備・拡大していくため、「覚書」交換を推進していくことが緊要であると考えます。

京都大学とスタンフォード大学との
学術交流に関する一般的覚書

京都大学総長とスタンフォード大学長は、両大学の教育研究の協力と交流を推進するために、ここに学術交流に関する覚書を作成する。

1. 両大学は、特に次の諸活動を行うことを奨励する。

- (1) 学術資料、刊行物及び情報の交換
- (2) 教員又は研究者の交流
- (3) 学生の交流
- (4) 共同研究及び研究集会の実施

2. 前項の諸活動の具体化については、両大学又はその関係部局で協議のうえ実施するものとする。

3. この覚書を変更又は解消する場合は、両大学の協議によるものとする。

4. この覚書は、日本語及び英語で作成され、両文書は等しく正文である。

平成元年(1989年)11月10日、京都

京都大学総長 スタンフォード大学長
西 島 安 則 ドナルド・ケネディー

平成元年1月17日

国際交流委員会 殿

総長 西 島 安 則

次の事項について、理由を添えて諮問します。

「大学間学術交流に関する一般的覚書」
交換の推進

(理由)

「大学間学術交流協定を締結するに当たっての基本的な考え方」については、昭和63年11月25日付けで貴委員会から答申をいただいたところであります。

本学は現在11校の大学と大学間学術交流に関する協定あるいは一般的覚書を締結・交換しておりますが、近年の学術・教育交流の飛躍的な進展に伴って、本学との交流協定締結を申し出る大学等も益々増加している現状にあります。加えて、従来から学術・研究交流上関係の深い機関をも含

西島総長、ノルウェー王国訪問

西島安則総長は、11月29日から、ノルウェー王国でのフルブライトプログラム40周年記念学術会議に出席し、あわせてノルウェー王国の高等教育・研究機関の実情を調査するため、同国を訪れ、12月6日帰国した。

オスロ市におけるノルウェー文化科学省及び同国フルブライト委員会の主催による上記会議において、西島総長は“The Japanese Integration in the International Scientific Community”と題する基調講演を行った。また、オスロ大学を訪問し教育・研究の実情とその将来構想について調査・懇談するとともに学術国際交流についても意見を交換した。

今回の訪問には、勝見 治広報調査課広報主査が同行した。

京都大学市民講座「はな」講演要旨（その3）

高齢化社会と花

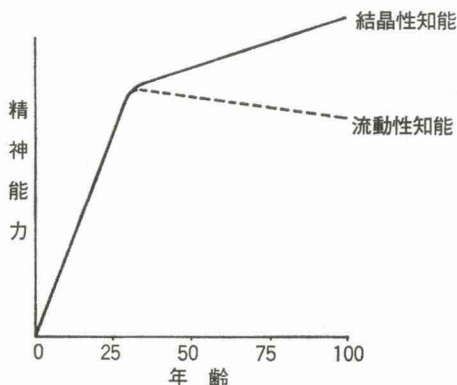
医学部助教授 村 井 淳 志

人生には若年(成長)期、壮年期、老年期がある。若年期には、何もしなくても光り輝く青春の花が咲き、壮年期にはその人の力によって仕事の花が力強く咲く。しかし老年期になると、すべての条件は悪くなる。歳をとって立派な花を咲かせる人もいるが、多くの老人は職を失い楽しみを失い、灰色の老後を嘆くようになる。老年期になっても生活を充実させて人生最後の花を咲かせることはできないのか。それは簡単ではないが、決して不可能ではないと考える。

どうすれば老人でも花を咲かせることができるのであろうか。第1に必要なことは、本人が花を咲かせようという気持ちをもつことである。周囲に甘えて依存的になってはいけぬ。いくつになっても、人はやり遂げようという気力を持ち続けなければいけぬ。第2は価値の尺度を変えることである。花には高価に売られるための花、人に感嘆させるための花がある。しかし老年期の花は売らなければならない。自分自身が楽しむための花である。第3に花を咲かせるためには準備がいる。退

職するより前から種々のことに首を突っ込んで、情報を入手しておくのがよい。これからは余暇が増え、老後の準備がしやすくなるであろう。

第4は病気にならないことである。夫婦揃って健康であって初めて花を咲かせることもできる。老年期には動脈硬化性疾患が多いので、その促進因子(危険因子)である高血圧、高コレステロール血症、喫煙、糖尿病、肥満、運動不足に注意する。脳梗塞の前触れ症状として一過性脳虚血発作——一過性に片側上下肢の脱力、しびれ、眼がみえなくなる症状——が重要で、もしおこれば医師の診断を受ける。狭心症も同様に心筋梗塞の前触れになるので、放置してはいけぬ。痴呆も困るが、そこまでではなくても精神機能が低下しては何もできなくなる。脳を大切に老化を防ぐように十分注意して欲しい。それにはまず脳を破壊する脳卒中にならないことである。また情報量が不足しないようにする。この意味で眼や耳の病気は大切である。環境の変化への不適応や意欲低下など心理的因子も悪影響がある。老人はうつ状態になりやすいので、必要なら早目に治療をうける。病気になって寝込まないよう、栄養をとるよう注意する。骨粗鬆症は骨折するので、カルシウムをしっかり摂取して運動をする。関節の病気も多くなってきた。老人病を防ぐため動脈硬化の危険因子をコントロールするだけでなく、積極的に体力を保持するための健康づくりの医学が目されるようになった。実際に、各臓器の働きを歳をとっても低下させないことも可能らしい。寿命の



25歳以降の精神能力の一般的衰退(破線)と精神的刺激を受けた老人たちの能力の上昇(実線)を示すグラフ。(Cattell らによる)

限界まで身心の健康を維持することが人類の夢であり、同時に老年医学の目標である。

第5に老人の関心を自分1人の楽しみだけに終らぬよう、他の老人の幸せにも広げて欲しい。話相手になるだけでも意味がある。

知的機能のうち流動性知能は歳をとると低下するが、結晶性知能は経験や学習の影響が大きく歳をとっても低下しない。(前ページ図参照) 皆さんが脳の働きを大切に守り、生活を充実させ、老年期の花を咲かせられることを期待する。

(むらい あつし)

人 生 の 花

—発達心理学的見地から—

教養部教授 村 井 潤 一

私たちは“花も実もある人生”“一花咲かす”“大地に根を下ろす”“人間が枯れる”といったように、人生を花、あるいはより広く植物にたとえることをごく自然に行います。子育てにおいても、子どもの才能が開花し、努力が実を結ぶことを願います。

このようなたとえを、発達心理学研究者としての私の問題意識と関係させながら話をさせていただきます。

1. このテーマを頂いて資料を調べていく中で、世阿弥の風姿花伝に出会いました。その中の“年来稽古条々”は、役者の修業のあり方を段階的に述べたものですが、これが非常に面白い。この中で彼は能の修業の開始は、7歳頃が適当であり、11, 2歳に花が咲くが、それは時分の花であり、まことの花は34, 5歳に咲くこと、そして17, 8歳頃は最初の花が失せ、気分が減入ってしまう時期であるが、ここを克服しなければ、まことの花を咲かせることができないと述べています。それぞれの時期での適切な修業の仕方の記載とともに、発達心理学的にいても、きわめて興味深いものといえます。特に平均寿命がかなりずれるとしても、34, 5歳頃が花の盛りの時期でこの時期までに花が開かなければ、頂点をきわめられず、またそれ以後は芸が衰えていくという記載は、プロ意識の現われとして、きびしく私たちの心を打ちます。ただあまりきびしいので、年老い

てから花が開いた人はいないかと調べていく中で親鸞に出会いました。彼の主な著書は、ほとんどが70歳代から80歳代にかけてのものであり、しかもその著作は枯れた文章といったものではなく、すごい迫力をもって私達にせまってきます。世阿弥とは異った意味で感動しました。

2. 子どもが将来、花を咲かせることを願うのは親心といえますが、どうも私たちは、その花という言葉で表している内容が知的能力に片寄りがちな気がします。確かに今日のような高度な工業化社会では知的能力は生きていく上できわめて重要であることは否定しませんが、問題はその中味です。私は今日の社会において特に必要な知性とは一つは創造的知性であり、いま一つはやさしさをもった知性であると考えます。特に後者について説明しますと、子どもの受験のためということであらゆることを犠牲にしてくれる家庭で育ち、親の期待に応えていわゆる一流大学に入り出世コースを歩んでいる人の中に、案外年老いてきた親に対して冷たいという例に出会うことがあります。このような親は本当に気の毒なのですが、親が行った子どものためという努力の中にどこかまちがっていたところがあったのではないかと、子どもの本当の心がみえていなかったのではないかと、そのためにやさしさの欠ける知が育ってしまったのではないかと私は考えます。

3. 私は発達心理学研究者の中では、障害をもつ人々につきあう機会が多い方かも知れません。それは私の発達心理学についての考え方からも来ているのでしょう。彼らは健常者と比べると、はるかに困難な状況下に生きています。特に現在、成人している人々の子ども時代はひどいものでした。心理学特に精神分析派の人々は、子どもの頃に受けた心の傷は、一生取り返しのつかない程深いもので、健全なパーソナリティの形成は望めないといえます。ところが私がつきあっている障害者の中には、人間的に幅広いパーソナリティをもち、立派な花を咲かせている人がいるのです。非常にひどい環境に育ちながらです。この事実はパーソナリティ形成理論に新しい問題を投げかけるものといえます。もちろん乳幼児期の経験が非人間的なものであってよい筈はありません。しかし人間の場合は取り戻しがきくのです。過去は変え

られなくても過去のイメージは変えられます。過去のイメージを変えるのは多分現在の経験のあり方でしょう。そして過去のイメージが変わることによって、現在の経験のもつ意味もかわり、パーソナリティは変容します。どのような経験が過去のイメージを変えるのでしょうか、いまのところ、よき師、よき友人に出会うといった漠然としたことしかわかりませんが、少なくともこの事実は、人間には植物や花にはたとえられない、人間独得の問題、素晴らしさがあることを表すものと考えます。どのような条件がこのことを可能にしたのか考え続けていきたいと思えます。

(むらい じゅんいち)

外国人学者、留学生懇親会

恒例の外国人学者・留学生懇親会が12月7日(木)午後6時から、京都グランドホテルで開催され、外国人学者、留学生、教職員、招待者、約900名が出席した。

懇親会は最初に、西島総長の挨拶があり、佐野学生部長の発声による乾杯で始まった。インドネシア、中国、ラテンアメリカの舞踊や各国の歌が披露され、午後8時過ぎに閉会した。

年末年始の火災予防と特別防火演習

本学教職員並びに学生諸君には、日頃から火災予防にご協力を願っているが、年末年始の火災多発期を控え、この機会に、一人一人が防火についての認識と理解をなお一層深めるようお願いしたい。また、消防署による本年の立入検査の結果、ガス器具とガスゴム管との接続部の不備、消火器の取替・設置等の不備、高圧ガスボンベの転倒防止措置の不備、廊下等避難経路上の不備、喫煙管理の不十分等種々の不備事項を是正するよう指示されている。それぞれの場において、これらのは是正指示事項に留意し、防火管理の強化及び消防用設備の点検等を実施のうえ、早急に改善されるようお願いする。

本学には、学内の火災事故に備えて、自衛消防団が置かれているが、本部地区自衛消防団による恒例の年末特別防火演習を12月19日(火)午後1

時30分より実施する。当日は、附属図書館の協力により図書館4階から出火したものと想定し、通報連絡、初期消火、避難誘導、救出、物品搬出等一連の総合訓練を行い、自衛消防団の消防車による活動のほか、左京消防署からも数台の消防車が出動して、合同の消防訓練等を行う。なお、宇治地区では11月27日(月)に実施済みであり、病院地区では12月18日(月)に実施予定である。

平成2年度大学入学者選抜 大学入試センター試験の実施

平成2年度大学入学者選抜大学入試センター試験は、平成2年1月13日(土)と14日(日)の両日に実施される。

このため本学では、1月12日(金)と13日(土)の両日の授業が休止される。

試験の概要は次のとおりである。

1. 日時及び教科

1月13日(土)	理科(A) (10:00~11:00)
	外国語 (12:10~13:30)
	数学(A) (14:20~15:20)
	数学(B) (16:10~17:10)
1月14日(日)	理科(B) (10:00~11:00)
	国語 (12:10~13:30)
	社会 (14:20~15:20)
	理科(C) (16:10~17:10)

2. 試験場及び志願者数

北部構内試験場	930人
教養部構内試験場	3,492人
本部構内試験場	3,495人
南部構内試験場(医学部・薬学部構内)	800人
計	8,717人

<部局の動き>

—公開講座—

保健管理センター・学生懇話室

—公開パネル討論会—

「夢・性・記号」

保健管理センターと学生懇話室との共催のもとに11月18日(土)午後2時30分から6時まで、法

経第七教室において、「夢・性・記号」のテーマで公開パネル討論会が開催された。この討論会は大学の精神衛生をめぐる周辺的话题を通して、精神保健の向上・理解を深めるもので、毎年学生・教職員を対象として実施し、今回270余名の参加者があった。

それぞれのテーマ及び話題提供者は次のとおりであった。

精神療法におけることば	北山 修 (北山医院 院長)
夢の〈死〉	新宮 一成 (教養部 助教授)
欲望のアレゴリー	浅田 彰 (経済研究所 助教授)
司 会	大東 祥孝 (保健管理センター 講師) (保健管理センター) (学生 懇話室)



< 紹介 >

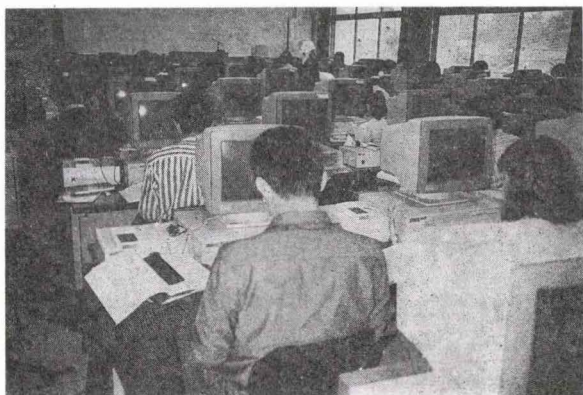
教養部情報処理演習室

当演習室は、1987年4月、臨時学生増募に伴って増築された教養部A号館東棟の南延長部分の3階に設置され、同年5月、情報処理教育センター(以下、「センター」と略す)の端末室として発足した。演習室は教養部のどの教室にも属しておらず、また専任の教職員も持たないため、教養部教授会のもとにある情報設備運営協議会によって運営されているが、後発施設の悲しさで年間維持費は毎年数万円程度しか認められていない。演習

室と演習準備室内の諸装置及びシステムはすべてセンターから提供されており、システムの維持や改良は全面的にセンターの教職員とメーカーのサービス機関のお世話になっている状態である。現在、準備室の5台とあわせて60台のパソコン端末(日立H2020)が置かれ、センターの大型計算機(HITAC・M-680H)と光ケーブルで接続されてTSS利用に供されるとともに、3台の管理サーバによりLAN(ローカルエリアネットワーク)システムが構成され、パソコン利用も可能となっている。これ以外に、TSS用のレーザービームプリンタ1台、パソコン用液晶プリンタ3台と、対話型学習援助システムCAVINが付設されている。CAVINは、教壇上の教官用端末から学生の端末へ模範画面を転送したり、逆に学生の画面をモニターできる装置であり、マイクとレシーバを用いて個別指導も可能である。以上の諸設備は現在学内ではセンターに次いで大規模な情報処理教育設備となっている。

60台のパソコン端末H2020は、センターの第二期システム更新のときに統一規格として導入された全学で合計約300台のうちの一部で、1120×720ドットのカラーディスプレイ、1MBのメモリ、20MBのハードディスク、1MBのRAMディスク、5インチFDドライブ1台を備えており、初めてパソコンを扱う大部分の学生にとっては贅沢すぎるともいえる代物である。難点を言うならば、標準搭載されているMS-DOS、BASIC、日本語ワープロ、追加購入したC言語以外に利用できるソフトが非常に少ないことであるが、初級教育ではTSS利用以外にこれだけあれば十分であろう。逆にこのことにより演習室のゲームセンター化が防止されているともいえる。

演習室の授業利用は「情報科学実習」が主で、午後4時間・半年コースが週4回、延8クラス開講されている。「実習」の目的は、初等的TSS利用とFORTRAN77による簡単なプログラミング(及び一部ではパソコン利用)を実際に体験することにより、あくまでも一般教育の一環として情報化時代への認識を深めることであって、最新の情報処理技能を習得することを主たる目的とはしていない。また、全員がそれぞれ1台の端末を利用できるよう1クラスの受講定員を設けてお



り、年間受講者数が希望者総数のほぼ3分の1の450名程度にとどまっているため、専門課程にすすむための必須科目ととらえる学生から強い不満が出ていることは確かである。専門基礎的な科目として全員に履修させるという方向は、そのような位置づけのコンセンサスが得られるならば、全学的な支援のもとにセンターと協力して設備の拡充と専任教職員の配置を実現すれば可能である。現有設備でもセンターの講義室とあわせて100人の講義・実習が可能であり、週2時間・半年のクラス制にすれば、週15クラス開講で年間3000人が受講できることになる。

情報科学実習以外で計算機利用を主としている科目としては、物理現象の計算機実験をテーマにした「物理学実験2」と、計算機援用による立体図形の認識をとりいれた「図学演習」がある。そのほかに「心理学ゼミ」「人文地理学4」「社会学2（調査実習）」「地学実験2」等において授業の一部として演習室が利用されている。また、演習室はセンターの運用時間にあわせて授業時間以外にも開放しているため、教養部の授業だけでなく学部講義の受講生の自習に使われることも多く、夏休み初期や学年末にはけっこう賑わっている。

(教養部)

訃報

池田 榮 名誉教授

本学名誉教授 池田 榮 先生は、11月22日逝去された。享年88。

先生は、大正14年に京都帝国大学法学部を卒業

後、本学助手、助教授を経て、昭和11年法学部教授に就任、同21年2月退官され、同50年1月京都大学名誉教授の称号を授与された。

本学退官後は、関西大学講師、教授、龍谷大学教授を歴任された。

先生は、政治史を専攻され、本学在職中には、イギリスを中心として、広くヨーロッパ近代政治史の研究に多数の重要な業績をあげられた。同時に、政治哲学の分野でも、独自の視点から研究を続けられた。主な著書に『イギリス近代政治史の研究』、『テーオーリアの主義と政治学』等がある。

これら一連の研究活動、学術上の功績に対して、昭和20年には勲三等瑞宝章が授与された。

ここに慎んで哀悼の意を表します。

(法学部)

土肥 美夫 名誉教授

本学名誉教授 土肥 美夫 先生は、12月3日逝去された。享年65。

先生は昭和24年3月京都帝国大学文学部哲学科を卒業、引き続き同大学院に同31年3月まで在籍し、この間、同25年8月より同志社大学教養部助手、同28年6月より同大学商学部講師として勤務、同31年4月に同大学同学部助教授、同39年4月には同大学同学部教授に就任、この間の同38年10月から同40年8月までスイス政府の給費生としてベルン大学哲学部に留学、同48年4月京都大学教養部教授に採用され、同63年3月停年退官された。この間、同57年4月から同58年4月まで京都大学評議員を務められた。

先生の専門は西洋近代美術、ドイツ文学と大変幅広いものであった。殊に表現主義芸術研究の権威で、『抽象絵画の誕生』『クレーの素描』等のような優れた著書や、学術論文も多く、また、日本独文学会、美学会、民族芸術学会、ドイツ文化・社会史学会(理事)に所属して広く活動され、本学退官後は、京都外国語大学の美術史教授、インターナショナル美術専門学校校長として活躍された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(教養部)

白馬山の家の冬季開設

本学の学生及び教職員の厚生施設として、例年夏季及び冬季に開設されている白馬山の家を、今冬も下記により開設します。

この山の家は、中部山岳国立公園白馬山麓の^{つがいけ}樽池高原にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、積雪量も多く、雪質の良さとともにスキーには絶好の条件を備えており、初心者向きから上級者向きまで各種のゲレンデがあります。

なお、建物は、山小屋風の木造地上2階、地下1階建てで、間取りは1階が食堂兼談話室、2階が寝室（ベッドで42名収容）、地階が浴室、乾燥室等からなっています。

記

1. 名 称 京都大学^{はくほ}白馬山の家
2. 所在地 長野県北安曇郡^{あづみ おたり}小谷村大字千国^{ちくに やなぎく ほ}字柳久保乙 869 の 2
(交通機関)
JR大糸線「白馬大池駅」下車、松本電鉄バス「親の原」^{おや はら}下車、徒歩約20分。
3. 開設期間 12月20日(水)～1月10日(水)並びに2月20日(火)～4月10日(火)
4. 所要経費 1人1泊 使用料80円、ほかに食費等実費程度。
5. 申し込み及び利用に関する詳細は、体育会事務室(西部構内総合体育館内、電話 学内2574)に照会してください。

(学生部)

日 誌

(1989年11月1日～11月30日)

- | | |
|--|---|
| <p>11月2日 チェコスロバキア 社会主義共和国 Karlovy
大学 Vaclav Prosser 副学長ほか1名来学、
総長及び関係教官と懇談</p> <p>6日 ドイツ連邦共和国 Dortmund 大学 A.B.
Cremers 副学長ほか1名来学、総長及び関
係教官と懇談</p> <p>8日 ソビエト社会主義共和国 連邦国立 Moscow
大学 Anatolii Alekseevich Logunov 総長
ほか4名来学、総長及び関係教官と懇談</p> <p>// 同和問題委員会</p> <p>10日 アメリカ合衆国 Stanford 大学 Donald
Kennedy 学長ほか2名来学、学術交流に関
する覚書交換並びに総長及び関係教官と懇談</p> <p>11日 文学部博物館公開講座「古文書セミナーⅢ」
(以後の日程は、25日、12月2日、9日)</p> | <p>11月14日 評議会
18日～19日
総長候補者の選挙</p> <p>22日 パキスタン回教共和国 Karachi 大学
Manzoor Ahmed 人文学部長ほか1名来
学、総長及び関係教官と懇談</p> <p>// 国際交流委員会</p> <p>// 国際交流会館委員会</p> <p>24日 学位授与式
// 防火委員会</p> <p>29日 総長、フルブライトプログラム40周年記念学
術会議出席並びに高等教育・研究機関の実情
調査のため、ノルウェー王国を訪問(12月6
日まで)</p> |
|--|---|

